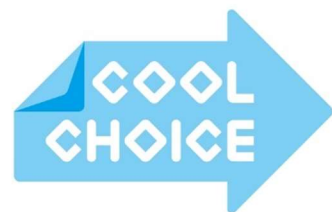


環境経営レポート

対象期間

令和5年10月1日 ～ 令和6年9月30日

全ては幸せになる為、豊かな地域づくりに貢献する



NOHARA

野原建設株式会社

発行：令和 7年 1月 22日

～ 目次 ～

◆ ご 挨 拶	-----P 2
◆ 会 社 概 要	-----P 3
◆ 環境経営方針	-----P 4
◆ SDG s の取り組み	-----P 5
◆ 環境経営システム実施体制	-----P 6
◆ 環境経営目標〈中長期目標〉	-----P 7
◆ 環境経営目標と実績 〈令和 5 年 10 月～令和 6 年 9 月〉	-----P 8
◆ 環境経営計画の内容・取組結果の評価	-----P 9 ～ P 16
◆ 次年度環境経営計画	-----P17
◆ 建設業に関わる主な関連法規	-----P18
◆ 代表者による全体の評価と見直しの結果	-----P19

ご挨拶

現在、環境問題は早急な対応が必要とされ、地球温暖化、森林破壊、オゾン層破壊など、個人レベルでの取り組みでは容易に解決できない状況に陥っています。会社全体でエコアクション21に取り組むことにより、社員ひとりひとりが様々な問題の現状を認識するようになりました。

また、環境マネジメントシステムを理解することにより、環境問題を企業の経営に関連付けて考え、環境保全への取り組みに着手していくための道標にしたいと考えています。そして、日々の仕事の中という一番身近な所から「持続可能な社会」への取り組みを考えて行動ができる資質を、社員ひとりひとりが身に付けていければと願っています。

社員一丸となってアクションしていくことで、環境に与える悪影響が少ない社会へ向けての新たな行動を起こすきっかけとしていきたいです。さらに、実践を積み重ねていく上で、効果的なアクションについても発信し、一企業として自然環境へのダメージが最小限になるよう、配慮の行き届いた経営を目指していく所存です。

野原建設は標高 750m の自然豊かな山間の地に生まれ、地域の方々に愛されながら 110 年の歴史を歩んできました。自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして野原建設はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一步一步着実に環境経営に取り組んでいけたらと願っています。

野原建設株式会社

代表取締役 野原 一司



会社概要

【名称及び代表者名】

野原建設株式会社

代表取締役 野原 一司

【所在地】

〒939-2513

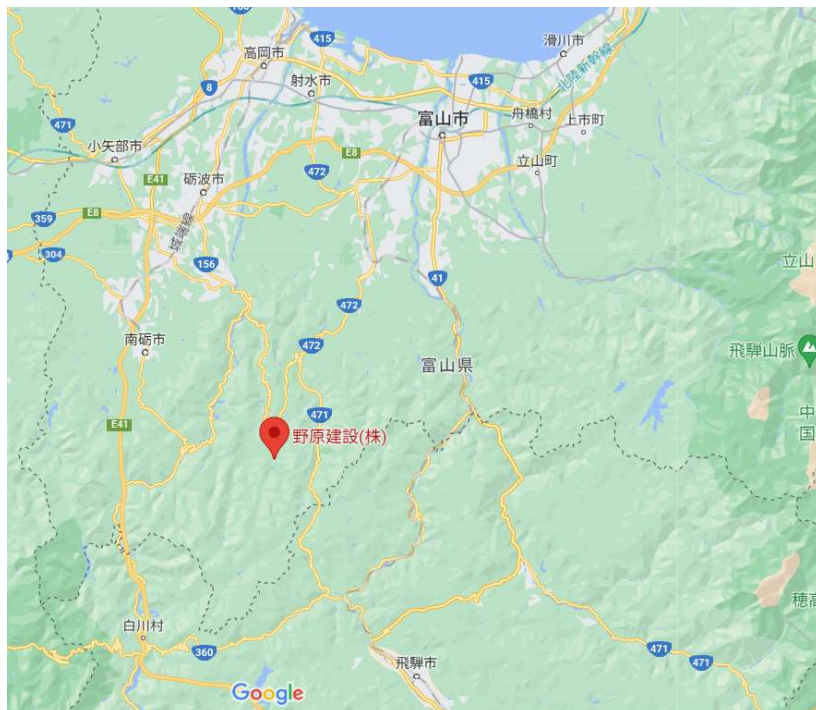
富山県南砺市利賀村上百瀬 165

連絡先 TEL 0763-68-2136

FAX 0763-68-2608

E-mail : toga-nk@p1.tst.ne.jp

H P : <https://www.toga-nk.jp/>



【環境管理責任者及び担当者】

環境管理責任者 (主) 山田 徹

(副) 蟹澤 悠也

環境事務担当者 蟹澤 佳苗

【事業内容】

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業、解体工事業

【一般建設業】建築工事業、管工事業、塗装工事業

【事業規模】

創 業	大正3年8月1日	設 立	昭和52年12月17日
資本金	2,100万円	売上高	4億3,500万円(令和6年度)
従業員数	23 名	事業所/ 倉庫床面積	282㎡ / 599㎡

【認証・登録対象範囲】 全組織・全活動が認証対象範囲とする

事業所名及び所在地	野原建設株式会社 〒939-2513 富山県南砺市利賀村上百瀬 165
対象事業所	本 社
活 動	建設工事業（一般土木工事、建築工事、道路除雪作業）

環境経営方針

- (1) 当社の事業活動に関連する環境関連法規を定期的に確認し、社会的要求事項を遵守し、発注者並びに利害地域の自治振興会との協調連帯を図ります。
- (2) 環境経営方針達成を目指し、環境経営目標・環境経営計画を策定し、全社一丸となって利害地域の環境保全活動の推進に努めます。
- (3) 全従業員のみならず関係者一同が理解・行動できるよう、環境経営方針の周知に努め環境教育や啓発に力を注ぎます。
- (4) 以下の項目について取り組みます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
 - ③ 総排水量の削減
 - ④ 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- (5) 環境経営レポートを社内外に公表し、地域社会の一員として社会貢献活動を積極的に推進します。

平成 21 年 10 月 1 日 制定

令和 5 年 4 月 30 日 改定

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司



SDG s の取り組み

当社は、南砺(なんと)市におけるSDG s(持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals)を取り入れたまちづくりに賛同し、なんとSDG sパートナーに登録しています。そして、南砺市と共にSDG sの達成につながる取組みを実施しています。



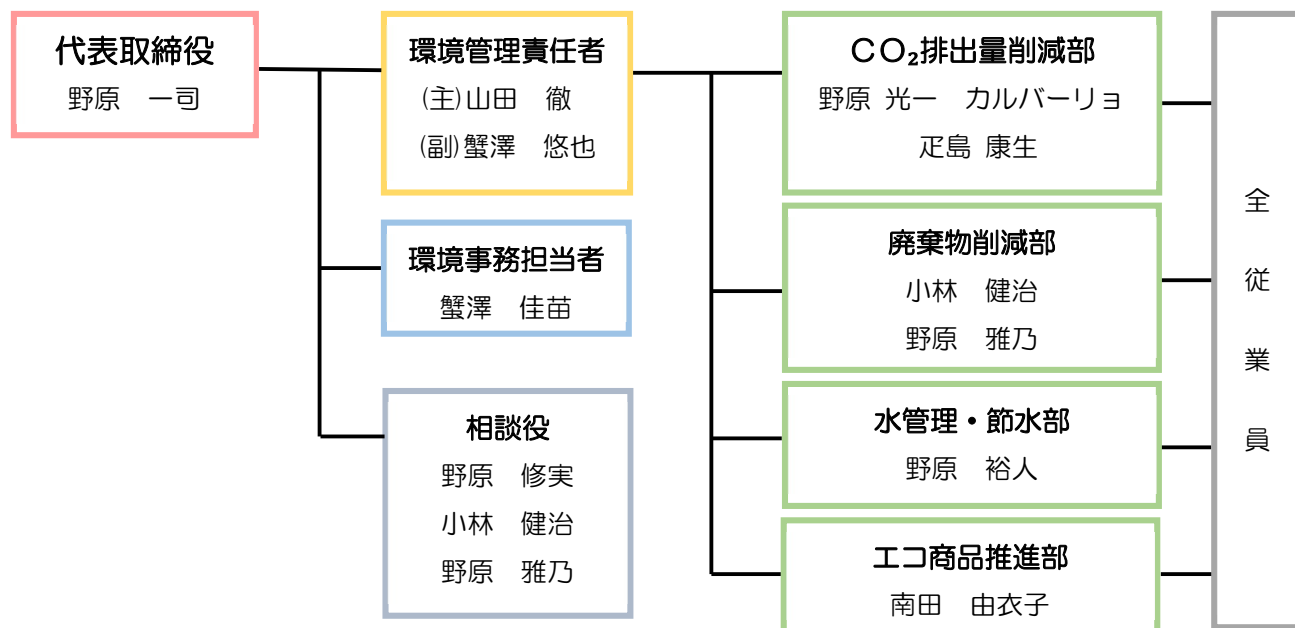
【当社の取り組みに関するSDGsのゴール】



【SDG sの取組み内容(対応する番号)】

- 災害時において建設機械等を応急対策に提供し、地域の安全を守ります。(11 13 17)
- 従業員の消防団加入及び活動を推進し、地域の安全を守ります。(8 11 13 17)
- 青年団や地域づくり協議会など各種団体の行う地域活動に協力し、地域の環境美化や振興に参画します。(3 4 11 17)
- 女性の活躍できる環境整備、男性の育児休業取得などを推進し、ジェンダー平等と一人一人が活躍できる環境を目指します。(3 5 8 10)
- チェックシートを用いた節電節水対策のほか、ハイブリッド自動車の購入によるクリーンエネルギー化に取り組めます。(6 7 13 14)

環境経営システム実施体制



役職	氏名	役割・責任・権限
代表取締役	野原 一司	- 環境経営に関する統括責任 - 環境管理責任者、環境事務局員を任命する - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員の周知 - EA21 全体の取組状況に関し、評価・見直しを実施する
環境管理責任者	(主)山田 徹 (副)蟹澤 悠也	- EA21 の要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し環境実績を向上させる - 環境経営計画書の承認 - 環境経営の取組結果を代表者へ報告
EA21 担当者	蟹澤 佳苗	- 環境管理責任者の補佐 - 環境経営計画書の作成及び実績集計 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部 門 長	野原 光一 カルバーリョ 疋島 康生 小林 健治 野原 雅乃 野原 裕人 南田 由衣子	- 自部門における環境方針の周知 - 自部門に関連する環境経営目標、環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 特定された項目の書類作成及び運用管理 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
相談役	野原 修実 小林 健治 野原 雅乃	- 環境管理責任者、各部門長の取組への支援 - 代表取締役による環境経営の補佐 - EA21 の計画・取組へのアドバイス
全従業員	各自	- 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 - 実施事項を守り、自主的・積極的に環境経営へ参加

環境経営目標〈中長期目標〉

項目		基準年度 R3-R5 平均	R6 年度 目標	R7 年度 目標	R8 年度 目標
CO ₂ 排出量 削減	CO ₂ 総排出量	409,316kg	387,000kg	387,000kg	387,000kg
	電気使用量	6,621kWh	6,700kWh	6,700kWh	6,700kWh
	ガソリン使用量	27,014L	26,500L	26,500L	26,500L
	除雪高に対する 軽油使用量	508.1L/ 百万円	508.1 L / 百万円	500 L / 百万円	500 L / 百万円
廃棄物排出量削減 (可燃ごみ)		117.4kg	120.0kg	120.0kg	120.0kg
産業廃棄物 再生資源利用率		100%	100%	100%	100%
総排水量削減 (5-11 月)		35 m ³	60 m ³ /年 (35 m ³)	60 m ³ /年 (34 m ³)	60 m ³ /年 (34 m ³)
グリーン商品等 購入実施の有無		実施	実施	実施	実施

目標設定においては、R3-R5 年度の平均値とし、各項目の排出量を下回ることを目指しています。
グリーン商品の購入推進の目標については、R6 年度以降は行動目標とし、環境に配慮した商品の購入実施を目指します。

当社では化学物質の使用はありません。

環境経営目標と実績

項目		H21 年度 実績	R6 年度 目標	R6 年度 実績	R6 年度 達成率	評価
CO ₂ 総排出 量削減	CO ₂ 総排出量	296,391kg	387,000kg	331,374kg	116.8%	
	電気使用量	7,093 kWh	6,700 kWh	6,871kWh	97.5%	
	ガソリン使用量	23,808 L	26,500 L	23,746L	111.6%	
	除雪高に対する軽油 使用量	1,417.3 L / 百万円	508.1 L / 百万円	440.8 L / 百万円	115.5%	
廃棄物 排出量 削減	可燃ごみ	224.85 kg	120.0 kg	123.9kg	96.9%	
	産業廃棄物の 再生資源利用促進率	-	100 %	100%	100%	
総排水量削減(5-11 月)		82 m ³	35 m ³	35 m ³	100%	
環境に配慮した商品等の 購入実施の有無		-	実施	実施	100%	

上の表は、エコアクションに取り組み始めた当初年度(H21 年度)と今年度の目標・実績を表したものです。

※達成率について、目標値/実績値 として算出しており 100%を上回れば目標を達成できたと判断します。

【実績に対する評価】

今年度は、CO₂総排出量、ガソリン使用量、除雪高に対する軽油使用量、産業廃棄物の再生資源利用促進率、総排水量、環境に配慮した商品等の購入実施の項目において、目標を達成できました。特に CO₂総排出量や、除雪高に対する軽油使用量については、より削減をすることができました。R5 年の春に近隣の給油所が閉鎖したことをきっかけに、車両の給油を計画的に行ったり、現場までの乗合せを行ったりするなど、社員一人ひとりが意識して行動することができました。

一方で、電気使用量は目標より 2.5%届きませんでした。電気使用量超過の要因として、冬期の暖房器具を、灯油ストーブからエアコンへと切替えたことが挙げられます。その一方で、灯油の使用量は大きく削減できたため、トータルで見ると CO₂排出量を削減することができました。

また、可燃ごみ排出量は目標より 3.1%届きませんでした。今年度は 7 月に第 1 倉庫の改修を行ったため、倉庫内のものを一掃したことが挙げられます。

以上の結果を受けて、目標を達成できた項目は継続して取り組み、次年度以降では全ての目標を達成できるよう、より一層努力します。

環境経営計画の内容・取組結果の評価

1.電気によるCO₂排出量の削減

【取組内容】

ウォームビズ・クールビズの
推奨

空調設備の
暖房 20℃・冷房 28℃設定

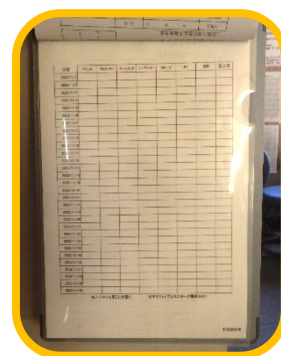
使わない部屋の照明を OFF

帰宅時の電化製品の OFF 確認
(チェックシートに記入)

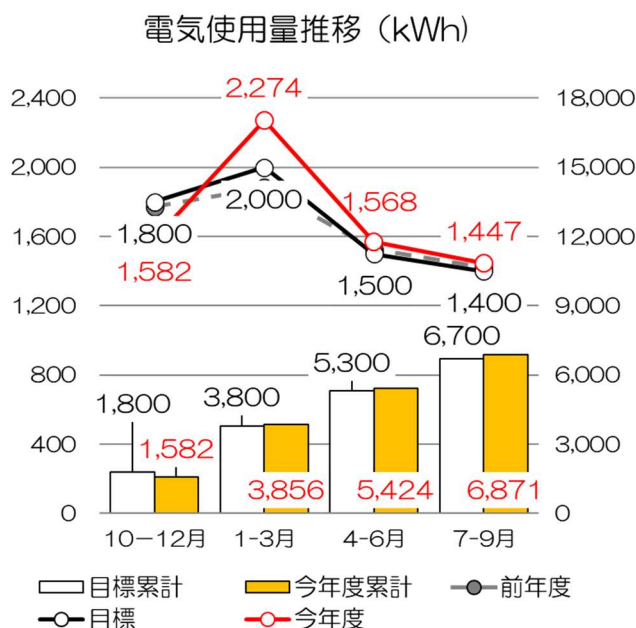
13 気候変動に
具体的な対策を



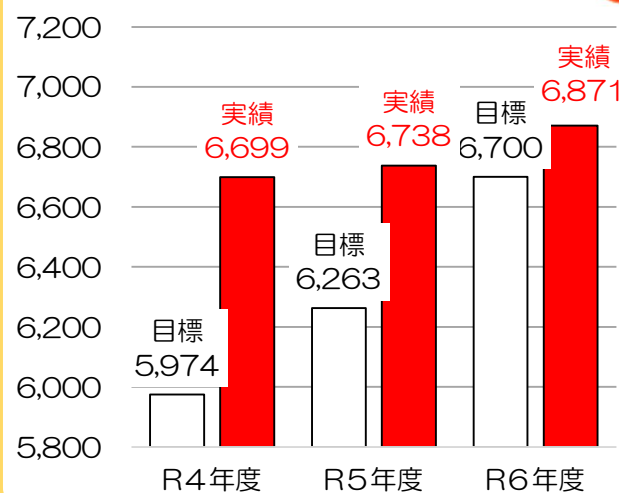
退室時に電化製品の付けっぱなしがないかを確認し、チェックシートに毎日チェックと名前を書くことで責任体制の見える化を行いました。



【取組の結果】



電気使用量 (kWh)



今年度の電気使用量は、目標値(6,700kWh)を2.5%超過し、目標を達成できませんでした。その要因として、主な暖房を灯油ストーブからエアコンへ切替えたことが挙げられます。

【評価及び次年度の取組】

電気使用量は目標値を超えましたが、灯油の使用量は前年度より307Lもの削減ができ、総合的に見るとCO₂排出量を削減することができました(7. その他の取組 を参照)。また、年間での空調の消し忘れの報告は1日のみと前年度よりも大きく減少し、日常での節電に対する意識ができていました。次年度の目標値は現状維持とし、目標達成を目指します。

2.ガソリンによるCO₂排出量の削減

【取組内容】

機械経費・燃費を
掲示し随時チェックエコ運転(急発進・急加速の廃止)
の実施タイヤの溝をチェックし
新しく交換する

遠方の現場へ乗合わせる

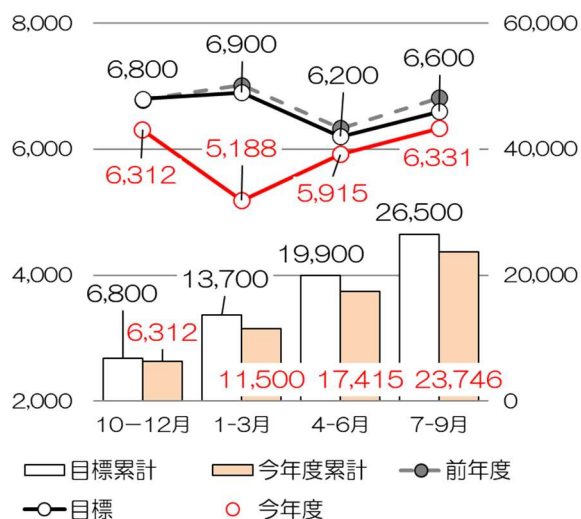
13 気候変動に
具体的な対策を

エコドライブ 10 のす
すめとともに、社用車の燃費
報告書のデザインを一新
し、グラフから色で表示
することで各車両の燃費の
良し悪しが一目でわかる
ようにしました。

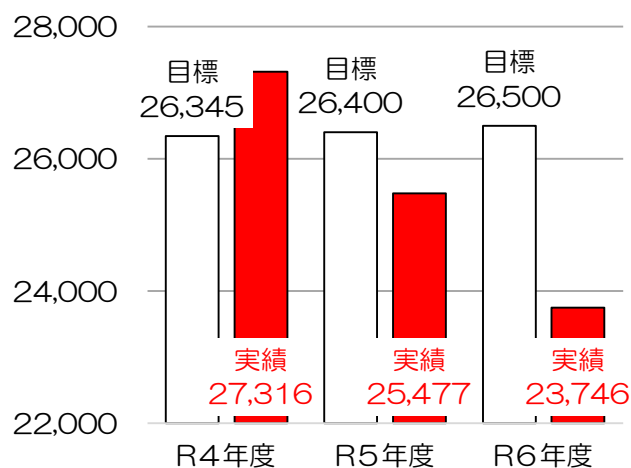


【取組の結果】

ガソリン使用量推移(L)



ガソリン使用量 (ℓ)



今年度のガソリン使用量は、目標値(26,500L)を10.4%下回り、目標を達成できました。主な要因として、冬季の除雪パトロール車両を軽油車両に変更したことや、1区間の除雪パトロールが無かったことが挙げられます。また、遠方の現場への乗合せや、計画的な車両の使用を心がけた結果、社員一人一人の工夫が実りました。一方で、不要なアイドリングや急発進・急加速を行っている場面も一部で見受けられ、改めて呼びかけることが必要とされます。

【評価及びの次年度の取組】

今年度は目標値を大きく下回ったので、今年度の実績値を次年度の目標値とし、次年度以降も目標達成に向けて努力していきます。また、行動内容としてまだ改善の余地があるため、改めて社内での呼びかけを行い、ガソリン使用量の削減を目指します。

3. 軽油による除雪期間のCO₂排出量の削減

【取組内容】

除雪機械の空吹かし・
暖気時間を最小限にする

静かな運転を実施する

車両の空吹かしを
最小限にする

低燃費・低排出型車両への
移行

11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を

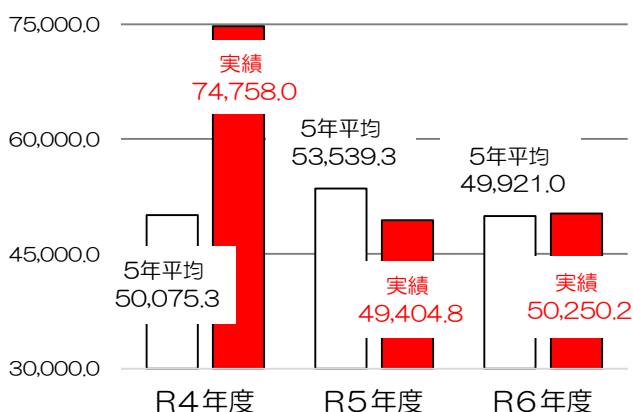


新任の除雪オペレータ教育
を行い、除雪技術力の
向上と静かな運転がで
きるように努力しました。

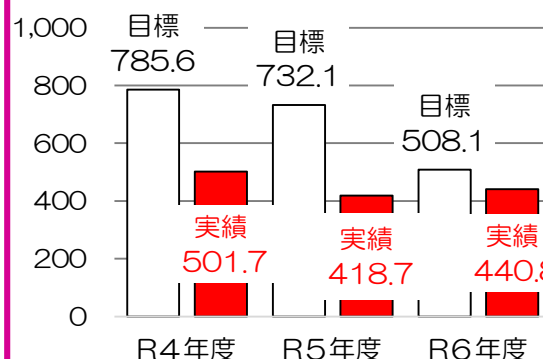


【取組の結果】

冬期軽油使用量（ℓ）



除雪高あたりの
軽油使用量（ℓ/百万円）



※軽油使用量は、春～秋までの工事受注数や規模に応じて変動が激しい為、除雪期間(12-3月)の除雪高に対する軽油使用量で評価しています。

今年度の除雪高あたりの軽油使用量は、目標値を13.2%下回り、目標を達成できました。今年度は、1-2月が例年より非常に降雪量が少なく、反対に3月の降雪量は多かったです。軽油の使用量は過去5年の平均使用量と同程度でしたが、若干軽油使用量の比率が上昇しました。

【評価及び次年度の取組】

今年度は目標値を5年平均から令和3年を起点とした平均として見直しました。また、CO₂排出量から軽油使用量へ単位を変更したことで、社内でも燃料使用と除雪高の関係のイメージがしやすくなり、社員の意識も向上したように思います。次年度では、今年度の実績値を目標値とし、連続目標達成はもちろん、年間を通して環境にやさしい車両や重機の運転を行い、軽油使用量の削減を行います。

4. 可燃ごみ排出量の削減

【取組内容】

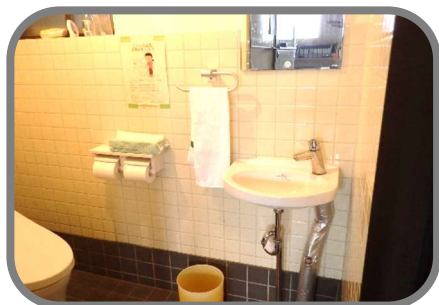
プラスチックは洗ってから
「資源ごみ」へ分別

ペーパータオルと
布タオルとの併用

菓子箱や大きな紙ごみは
「雑がみ」へ分別

印刷プレビューのチェックで
印刷ミスを徹底

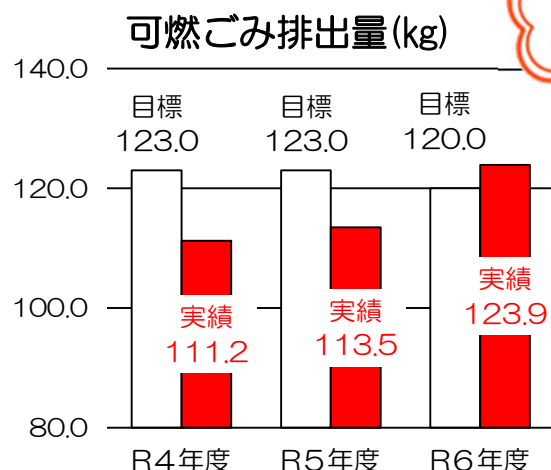
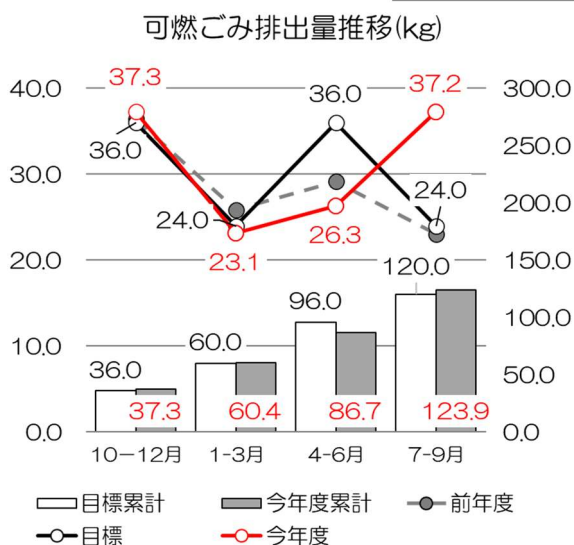
13 気候変動に
具体的な対策を



【取組の結果】

前年度より布タオルの使用
を再開し、ペーパータオルの
使用を削減しています。

ペットボトルのキャップを
きれいにするためにボウル
に水を張り、汚れを落としや
すくしました。



産業廃棄物 再生資源利用率	目標	R4 年度	R5 年度	R6 年度
	100%	100%	100%	100%

今年度の可燃ごみ排出量は、目標値(120kg)の3.3%を超過し、目標を達成できませんでした。要因として、7月に倉庫を改修したことが挙げられます。

産業廃棄物においては、前年度同様に目標の100%を達成し、維持することができました。

【評価及び次年度の取組】

今年度は、目標達成こそできませんでしたが、普段ではプラスチックごみと可燃ごみとの分別が良くできていました。今年度より菓子箱、カレンダーを、「雑がみ」として分別を開始した結果、年間で22.2kgも回収することができました。また、汚れたプラスチックごみや、ペットボトルのキャップは洗ってから分別という流れも浸透してきています。次年度の目標はR5年度実績とし、目標達成を目指します。

5. 水の節水努力の維持及び漏水調査・管理

【取組内容】

帰宅時に水道チェックリストを記入する

手洗い時の節水を呼びかける

車両の清掃や植物の散水には自然水を使用する

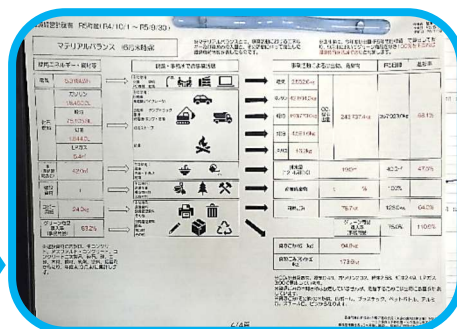
冬季は漏水の確認をする

6 安全な水とトイレ
を世界中に

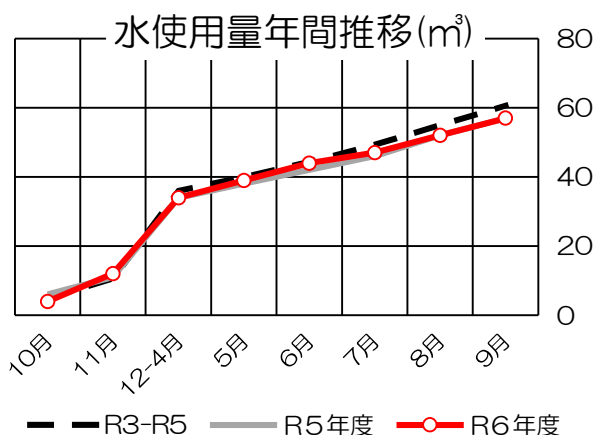


POP をシンク近くの見やすい場所に貼り、節水を呼びかけました。

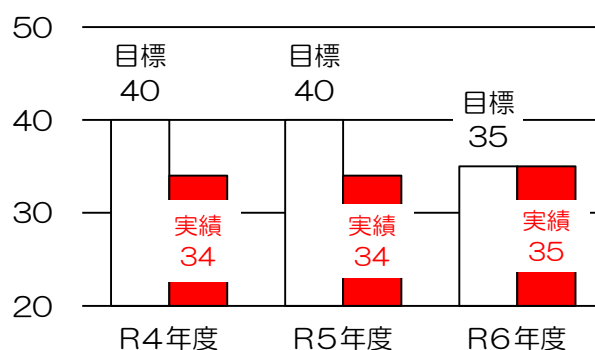
行動計画表のデザインを変更し、使用量と進捗状況を一目でわかるようにしました。



【取組の結果】



水使用量(m³)



※12月～4月は積雪のため、1か月ごとの計測ができないほか、冬季は水回りの凍結防止の為やむを得ず排水を行うので実績には含んでいません。

【取組の結果】

今年度の水使用量は、目標値(35 m³)の ±0%となり、目標を達成できました。要因として、継続して手洗いでの節水の呼びかけのため、個人の意識が常に高く維持できたことが挙げられます。

【評価及び次年度の取組】

目標は達成した一方で、冬季は水道の凍結が2度発生しました。その対策として灯油ストーブを使用していましたが、凍結予防の排水が不十分であったので、改めて排水を行う上での責任体制を話し合うなどの課題が残りました。

R4年度、R5年度の実績より、次年度の目標は34 m³とし、今後も継続して節水に努めます。また、冬季の凍結が発生しないような環境づくりにも注力していきます。

6. 環境に配慮した商品の購入推進

【取組内容】

グリーン商品を把握・購入する
(定期的な商品のチェック)

購入商品リストを掲示し、
社内全体で見える化を行う

購入担当者と連携し、
商品の購入を推奨する



年度内に購入した商品の一例

コピー用紙は 100%
再生紙を継続して購入
しました。

ラベルレス飲料および
グリーン商品を継続し
て購入しました。

12 つくる責任
つかう責任

・アルカリ乾電池	・コピー用紙 A4、A3	・マッキー極細
・X スタンパー速達用	・ファイルボックス	・油性ペン インク黒
・インク黒	・ホワイトボードマーカー	・ペーパータオル
・クリアケース	・ふせん	・製本テープ
・消しゴム mono	・バンドクリップ名札	他

※今年度以降の目標は、事務用品のグリーン商品購入率(金額)から、指定した商品の年間購入実施の行動目標へと変更いたしました。



【取組の結果】

今年度のグリーン商品、ラベルレス飲料、100%再生紙コピー用紙の年間での購入実施目標は、全
て達成できました。その中でも、グリーン商品と 100%コピー用紙の購入は、3 ヶ月毎の集計を
行っていますが、すべてにおいて実施できました。

ラベルレス飲料は、5 月と 7 月に購入することができました。ラベルレス飲料は主に麦茶や紅茶
をはじめとした冷たい飲料が多いため、冬季は需要度が低く、さらにその当時は、従来品(ラベル
あり飲料)よりも価格が割高であったため、社内で相談し、購入はしばらく様子を見ることとしま
した。

【評価及び次年度の取組】

次年度以降においても購入品目は同等のものを目標として掲げ、継続して呼びかけをしていきま
す。また、積極的に社内の意見を取り入れ、購入すべきものを随時検討していきます。

7. その他の取組

・灯油使用量の削減

13 気候変動に
具体的な対策を



R6 年度は冬季の暖房をエアコンを主に切替え、快適に事務作業を行えるようにしました。

【取組の結果】

10－4 月の 電気・灯油使用量 と CO ₂ 総排出量	電気使用量 (R3-R5 平均比)	灯油使用量 (R3-R5 平均比)	CO ₂ 総排出量※ (R2 年度比)	備考
R2 年度	3,479 kWh	2,655L	8,281kg (± 0kg)	工務室 AC 設置前
R3 年度	3,988 kWh	2,691L	8,615kg (+334kg)	工務室 AC 設置
R4 年度	4,335 kWh	2,260L	7,708kg (-573kg)	
R5 年度	4,368 kWh	1,844L	6,688kg (-1,593kg)	
R3-R5 平均	4,230kWh	2,265L	7,670.3kg (-610.7kg)	AC 冷房を主に使用
R6 年度	4,502kWh (+272kWh)	1,537L (-728L)	6,074kg (-2,273kg)	AC の暖房使用を 推奨

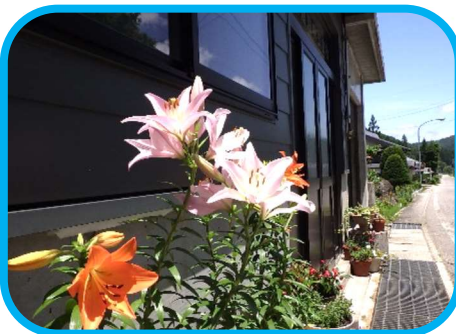
※電気の CO₂排出係数：0.499 灯油の CO₂排出係数：2.49 により計算

令和 3 年度に工務室に設置したエアコンは、夏季の冷房を主な目的として使用していましたが、今年度は冬季のエアコンの使用に着目し、灯油ストーブからエアコンを主にした空調の切替えを推奨しました(初期の採暖時のみ、エアコンと灯油ストーブと併用しました)。

その結果、R3-R5 平均よりも、電気使用量は 271.7kWh 増加し、灯油使用量は 728L 減少しました。そして、今年度の電気と灯油による CO₂総排出量は、**6,074kg** となり、R3-R5 平均より 1,662.3kg の CO₂排出量の削減ができました。

今年度は暖房を目的としてエアコンを使用したことで、上記の CO₂排出量の削減はもちろんですが、当社までの運搬距離や燃料配達の手間やコスト、手作業での灯油タンク給油時の燃料漏れリスクなどを考慮すると、非常に環境に良い結果につながったのではと思います。

- ・環境緑化への貢献



事務所前にプランターや花壇を配置し、花を植えることで会社のイメージアップを図りました。

- ・NPO 法人へのエコキャップ寄付



購入したペットボトルのキャップを洗浄のち収集し、NPO法人団体に寄付しました。今年度は 4,730 個の寄付を行いました。

キャップは再生プラスチック原料として換金され、医療支援や障がい者支援、子どもたちへの環境教育等の社会貢献活動資金となりました。



・個人の荷物でも職場で受け取ろうキャンペーン



宅配便を自宅だけでなく職場でも受け取れるサービスを導入し、再配達防止に協力しています。

次年度環境経営計画

環境方針	項目	R7 年度目標	目標達成手段
CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 総排出量	CO ₂ 総排出量の削減 年間排出量 331,374 kg-CO ₂ (R6 年度実績)	・効率的な施工方法の打合せ ・手戻りの無い工程管理 ・重機の静かな運転 ・車両・機械のメンテナンスの徹底
	電気	CO ₂ 排出量の削減 年間使用量 6,700 kWh (R4 年度実績)	・冬季 20℃の室温設定 ・夏季 28℃の室温設定 ・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・電源チェックシートの運用
	ガソリン	CO ₂ 排出量の削減 年間使用量 23,746 L (R6 年度実績)	・急発進・急加速の廃止 ・不要なアイドリングの廃止 ・車両の燃費表の掲示・把握
	軽油	除雪工事高に対する CO ₂ 排出量の抑制 440.8 L / 百万円 (R6 年度実績)	・除雪時は静かな運転に努める ・低燃費、低排出型車両への移行 ・除雪オペレータの指導、教育
廃棄物量の削減	可燃ごみ	可燃ごみ排出量の削減 年間排出量 113 kg (R5 年度実績)	・社内、現場での分別の推奨 (プラスチック・雑がみ・ペットボトル) ・コピー用紙の裏紙、両面印刷の徹底 ・ペーパーレス化の推進
	産業廃棄物	産業廃棄物の再生資源 利用促進率 100% (R6 年度実績)	・現場廃棄物の分別の推進 ・発注者との事前協議の徹底
排水量の削減	水道	5-11 月排水量 34 m ³ (R5 年度実績)	・水道量の把握・チェックシートの運用 ・自然水の利用(植木への散水等に使用)
環境に配慮した商品の購入推進	エコ商品	(行動目標) 環境に配慮した商品の 購入の実施	・グリーン商品の把握・周知・購入 ・ラベルレス飲料の購入実施 ・100%再生紙の購入実施

※ (R7 年度の目標は R6 年度の実績を基にしており、目標が達成できればその実績を次年度の目標とし、達成できなければ目標は継続とします。以上の目標設定において、すべての項目の達成を目指します。)

建設業に関わる主な関連法規等

環境法規制等の名称/略称	該当する活動	評価
環境基本法	自然環境の保全措置	○
グリーン購入法	環境に配慮した物品の購入	○
地球温暖化対策推進に関する法律	温室効果ガス排出の抑制	○
環境配慮事業促進法	事業活動に係る環境情報の提供	○
廃棄物処理法	産業廃棄物処理委託契約書、許可証の確認、マニフェストの保存義務、取りまとめの報告	○
リサイクル法	建設副産物の再利用、再資源化の促進	○
建設リサイクル法	資材の分別解体、再資源化の促進	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正な処分	○
オフロード法	基準適正機械の利用	○
消防法(危政令)	第2 石油類軽油等：2000L タンクローリーの保管	○
富山県景観条例	事業活動を通じて地域の景観づくりに寄与	○
南砺市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	廃棄物の適正な処理	○
特記仕様書	特記仕様書に準ずる施工	○

弊社は、建設業に係る環境関連法規（富山県や南砺市の条例も含む）についてすべての適正法令を遵守しており、訴訟もありません。

代表者による全体の評価と見直しの結果

対象	変更の有無	評価
環境方針	☐ 有／ ☒ 無	今後も環境方針は変えずに取り組んでいく。
目標	☒ 有／ ☐ 無	過去平均から、直近の実績を基にした目標へと変更し、達成することにより目標を再設定することとした。より積極的な目標達成へ取り組んでいく。
計画	☐ 有／ ☒ 無	画期的な手法などは模索しているところだが、堅実にできることを少しずつ取り上げ、計画し、目標達成につなげていく。
実施体制	☐ 有／ ☒ 無	各担当者の努力に敬意を払いたい。現状の体制を維持する。
その他	☐ 有／ ☒ 無	社内のコミュニケーションをより積極的に行い、環境経営に取り組む。

代表者による全体総括

環境経営の継続によって社員の意識向上もあり、今年度も有意義な取り組みになったと思います。目標を達成できなかった部分についてはそれぞれ理由と対策を考えて次年度に繋げてもらいたいです。今後も安定した実績を維持していくことを目標に取り組んでもらいたいと思います。

2050年のカーボンニュートラルへの貢献に向けて、身近な所では南砺市においてはSDGsパートナーへの登録を行うなど、当社として出来るところから参画していきたいように考えています。自治体等とも連携して更に環境経営を発展させていきたいところです。

環境に配慮した経営に取り組むことにより、地域社会や会社がより良くなっていくと確信しています。日々の仕事の中でという一番身近な所から「持続可能な社会・会社」への発展を考えて行動ができる資質を社員ひとりひとりが身につけていくことを願っています。

自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして当社はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一步一步着実に環境経営に取り組んでいきたいと思っています。

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司

評価日：令和7年 1月 22日